

令和元年度 兵庫県立神戸北高等学校 学校自己評価結果

【集計方法】

よくできた…4点、まあまあできた…3点、あまりできなかった…2点、できなかった…1点 として集計し、平均を算出。

平均が3点以上の場合評価A、3点未満の場合評価Bとしている。

「分掌内での評価」は、その分掌に所属している先生の評価、「分掌外からの評価」は、その分掌に所属していない先生からの評価を示している。

全体評価		分掌内での評価		分掌外からの評価		重点事項	具体的取組
《総務部》							
2.9	B	3.0	A	2.9	B	日常の清掃活動やゴミの分別を徹底させ、校内美化を図る。	管理委員によるゴミステーションの分別確認、学年や顧問と連携しての注意喚起を行う。美化強化週間を設定し、生徒の校内美化に対する意識を高める。
2.5	B	3.3	A	2.4	B	緑化委員会活動を活性化させる。	緑化委員会の活動を体系化させ、積極的に実施させる。生徒が主体となり、活発に活動できるようにする。
3.3	A	4.0	A	3.2	A	安全・防災教育の充実をはかる。	地域防災教育活動をさらに充実させ、震災行事等を通して防災への関心を一層高める。
3.2	A	3.3	A	3.2	A	広報活動を活発化し、本校の魅力を対外的にアピールする。	学校ホームページの更新をこまめに行う。 「北高だより」の内容の工夫、充実を図り、定期的に発行する。 特色選抜学校説明会やオープンハイスクールで、本校の魅力がわかりやすく伝える工夫を行い、生徒の活躍をアピールする。
<p>《今年度の振り返りと来年度への改善点》</p> <p>総務部は本年度人員が全員替わったこともあり、例年実施していることの確認・踏襲に終始していたことが大きな反省点である。校内美化について、管理委員によるゴミステーションの分別確認はできていたが、日常的に校内美化を呼びかけることは不十分であり、清掃が十分でない箇所も見られた。今後、生徒・職員が日常的に校内美化を意識するためにどのような管理委員主体の活動をするかを考えていきたい。また、緑化委員会の活動については、分掌内外で評価が分かれた。花壇の整備・水やりは当番制で定期的に行っているが、その活動が本校職員に知られていない部分がある。分掌外からの厳しい評価を受け、校内緑化活動について、花壇の整備に留まらず、美化活動とつなげた活動を考えてい。地域防災教育活動については、マンネリ化を懸念する声は事後アンケートに見られた。本年度は避難訓練は全校生、防災教育活動については1年生が参加したが、来年度は防災教育活動を1年生に限定せず、全学年が取り組む形にプログラムを作成して、防災を意識させる取組にしていきたい。</p>							
《教務図書部》							
3.1	A	2.7	B	3.1	A	授業規律を確保し、生徒の学習意欲や興味・関心を喚起する指導の工夫、指導技術の向上を図る。	全ての教科において、研究授業による教員相互の評価や生徒による授業評価をととして、指導の工夫や指導技術の向上を図る。
3.2	A	3.3	A	3.2	A	本校生徒の進路実現を図るべく類型や教育課程を検討する。	各生徒の進路実現が可能となるよう柔軟な教育課程の設定と類型の特色化を行う。また、総合的な探究の時間の年間計画を作成する。
3.5	A	3.5	A	3.5	A	学校教育活動の公開に努める。	公開授業週間を年3回設定する。
3.3	A	3.8	A	3.3	A	図書館の活性化を図る。	図書委員による図書館運営を中心に、授業等での活用をさらに増やすべく、図書の本の整備や図書室の環境整備に努める。
<p>《今年度の振り返りと来年度への改善点》</p> <p>本年度、教務部は例年実施していることを踏襲しつつ、改善できることは改善していくという姿勢で臨んだ。教育課程は総合的な探究の時間に合わせた来年度以降の教育課程を決定することができた。今後は2022年度施行の新しい学習指導要領を見据えた教育課程を作成していくことが重要となる。公開授業は例年通り設定することができ、2学期の公開授業では、スポーツ概論の授業で地域住民とともにゲートボール大会を開催するなど、新しい試みも見ることができた。図書室は今年度は古くなった本は廃棄し、新しい本を購入して本の整理に動いた。毎月発行している図書便りを見て、新しく購入した本を生徒が借りに来るなどの一定の成果はあげているが、利用者数は横ばいといったところで、今後さらに利用者を増やしていくための工夫が必要となる。</p>							
《生徒指導部》							
3.1	A	3.0	A	3.1	A	何事にもあきらめずチャレンジする精神を育てる。また、北高生としての自信と誇りを持ち、基本的な生活習慣を確立させるとともに、普段から自然に周りへの気遣いができ、日常の小さなことでもおろそかにしない心を育てる。	何事においても北高生としてのプライドを持ち、あきらめずチャレンジすることの重要性を育てたい。日常的な遅刻指導、服装、身だしなみ指導を行うとともに各種学校行事、生徒会活動の中で何事にも真心を持って自然と接し実践することができるような指導を行う。生徒が作成した北高10ヶ条を実践していきたい。
3.2	A	3.8	A	3.2	A	ボランティアの意識を高め、将来の仕事や人格形成に役立つように様々な活動への参加を促す。	街頭での募金活動や里山づくりなど、学校行事などで生徒が子どもや地域の人達と接する機会を作り体験することでボランティア意識を養う。
3.3	A	3.8	A	3.3	A	地域の人々との交流を図り、地域にある学校としてのアイデンティティを確立していく。	地元地域の活動である里山づくりに参加し、地域と共に教育環境作りを進める。また地域青少年協や小・中学校と協力して地域音楽祭や、凧揚げ大会や餅つき行事等を開催することで地域住民(幼・保・小・中学生)とふれあう機会を作る。
<p>《今年度の振り返りと来年度への改善点》</p> <p>本年度はメンバーがすべて入れ替わったために、当初は前年度の取り組みの踏襲になったが、学期途中より改善点については職員の理解を得ながら積極的に取り組めた。特に校則の見直しでは、特別指導規定の見直しや気温の変化に応じた服装規定の見直しによりセーター登校を認めた。また、遅刻の週間については基本的な生活習慣の見直しをするような指導に変更した。いじめアンケートでは、自宅へ持ち帰り記名するという新しい方式に変更した。生徒指導関係の書類の簡素化では旅行届の改善、早朝・残留・試合届の廃止による簡素化、部活動予算については、配分の見直しとチーム管理のユニフォームの購入を来年度より導入する。また、部活動の4訂版への対応と現状認識のため、アンケートを実施し、本校の規定を守れているか確認した。部活動の活性化については、1年生の全入生の評価を行い、自主的・自発的な活動を促すためのリーダー研修会を実施した。来年度は球技大会の改革や文化祭の内容についての充実を図りたい。</p>							

全体評価		分掌内での評価		分掌外からの評価		重点事項	具体的取組
《進路指導部》							
3.3	A	3.7	A	3.3	A	生徒の進路に対する意識・意欲の向上を図る。	進路ガイダンスや総合的な学習の時間などを通じて、進路に対する意識と意欲の向上を図り、生徒に自己の将来を考えさせる。
3.0	B	3.3	A	3.0	B	職場体験の場を整える。	本校は就職希望者も多いことから、職業体験活動・ふれあい看護体験・インターンシップ（企業・官庁）などの体験の場を提供することで、現場で働くことについての具体的なイメージを持たせ、卒業後の進路につなげる。
3.2	A	3.3	A	3.2	A	進路に関する情報を職員間で共有できるようにする。	進路指導部会を通して、各学年と連携を図りながら、生徒の進学就職意識に関する情報など進路に関する情報を共有し、今後の進路計画が立てやすい状況を整える。
2.8	B	2.0	B	2.8	B	生徒や保護者にむけて進路や学習に関する情報を積極的に発信する。	定期的に『進路通信』を発行することで、情報共有が難しい職員に対してのみならず、生徒や保護者に向けて様々な進路に関する情報を積極的に発信し、より良い進路実現につなげていく。
《今年度の振り返りと来年度への改善点》							
<p>本年度は、来年度の大学入試改革を見据え、各学年への情報伝達や意見交換に力を入れた。特に積極的に校外での説明会などに参加し、大学入試改革に関する情報収集に努めた。各学年での進路ガイダンスや日本学生支援機構奨学金の予約採用手続き、進研模試についても、学年と協力しながら取り組むことができた。インターンシップ、ふれあい看護体験についても実施したが、就職希望者が増加傾向にあることもあり、来年度以降より職場体験の場を整えていきたい。就職指導については、複数の企業に見学に行けるよう日程を調整するなど、就職状況の変化に対応した指導を行った。近年、高校求人件数が増え、生徒の選択肢が広がっている。来年度もよりよい企業選びに尽力したい。今年度も2年、3年での保護者会で情報提供を行ったが、『進路通信』を発行できなかったことが大きな反省点である。来年度も引き続き、大学入試改革に対応するために、情報を収集とその提供に力を入れ、また学年と協力しながら就職指導にも取り組んでいきたい。</p>							
《保健部》							
3.0	A	2.5	B	3.0	A	教育相談の充実、有効利用。	学年と連絡を密にしながらか相談が必要な生徒を早期に見つけ、利用を促す。
3.0	A	3.0	A	3.0	A	安全な環境づくり。	学期ごとに安全点検を実施し、危険箇所の発見、改善に努める。
2.8	B	2.5	B	2.8	B	保健委員会の積極的活用。	保健委員に健康に関する問題を考えさせ、アンケートを作成させ、結果を分析させる。全校生徒に対して知らせて、自分たちの生活を改善する契機とさせる。
3.3	A	3.0	A	3.3	A	健康診断結果の有効活用。	健診結果をもとに、要受診生徒の保護者に受診勧告書を出し、生徒の受診を促す。
《今年度の振り返りと来年度への改善点》							
<p>本年度は昨年に引き続き教育相談の充実や学習環境の整備、生徒の健康に関する啓発をおこなった。教育相談に関しては、毎月の終わりに次の教育相談の日程を保護者に知らせるとともに、担任との連携を図り生徒の状況を共有しある程度の成果はあったが、生徒にとっては心理的に相談のハードルが高いと考えられるため、新1年の1学期当初にカウンセラーの先生に話をさせていただき顔合わせをすることで相談しやすくなるのではと考える。保健委員の活動は定期的トイレの消毒液、手洗い液の点検、補充をしっかりおこなっており、3月の学校保健委員会で発表を行う準備をしている途中なので評価が上記の結果になっている。生徒の健康に関することは、毎月の保健だよりで周知しており、健康診断の個人結果の通知を夏季休業前の三者面談で担任を通して保護者に知らせ、要治療は病院受診を促している。次年度も徹底したい。</p>							
《第1学年》							
3.4	A	3.5	A	3.4	A	指導方針の共通理解を図り、生徒情報の共有を常に心掛ける。	学年会はもとより、日頃からも生徒情報の共有に努め、学年団全体で指導に当たる。
3.3	A	3.0	A	3.3	A	「克己復礼」を合い言葉に、弱い自分を克服し、何事も諦めない姿勢を育み、礼儀を重んじる姿勢を身につける。	何事にも真剣に取り組み、自己肯定感を養い、弱い自分に打ち勝つ心を育てる。また、挨拶の励行、制服を正しく着るなどの礼儀を重んじる姿勢を身につける。
3.1	A	2.2	B	3.1	A	規則正しい生活習慣を確立させる。	手帳を活用し、連絡事項や日々の予定を記入させることで、学校生活・家庭学習を充実させる。
3.2	A	3.2	A	3.2	A	基礎学力を定着させる。	週末課題（国・数・英）に取り組みせ、漢字テスト・英単語テストも実施。理解不足の生徒には、考査前の質問会や補習を学年全体で取り組む。英・国・数では、授業時間中に学び直しを実施し、基礎学力の向上をはかる。
3.1	A	3.3	A	3.1	A	進路実現に向け、生徒自身が自主的に考え、行動する姿勢を養う。	進学希望の生徒には、大学・短大・専門学校のオープンキャンパスに積極的に参加させ、進学について具体的に考えさせる。就職希望の生徒には、インターンシップなどの就職体験を通じて、社会人としての有り様について考えさせる。
3.0	B	2.2	B	3.0	B	ボランティア活動等に積極的に参加するとともに、活動を通じて地域との交流を図る。	地域貢献活動、ワークキャンプや小学校のサマースクール等への生徒の積極的な参加を促す。
3.3	A	3.2	A	3.3	A	保護者と連携を密にし、生徒一人ひとりを支援する体制を作る。	学年通信を定期的に発行し、学校・学年の取り組みを紹介する。学校・家庭における生徒の情報交換に努め、保護者と密に連絡を取り合い、生徒・保護者・教師が同じ方向にむかって、丁寧な取り組みに努める。
《今年度の振り返りと来年度への改善点》							
<p>生徒の自主性を重んじ、「克己復礼」を学年の教育目標にして指導してきたが、問題行動を起こしても名乗り出なかったり、週末課題の居残りをさぼったりと、なかなか思うように指導できなかった。学年団は一致団結し、それぞれの担任クラスの運営を頑張ってくれ、いろんな事案にも学年団で共有し、一つ一つ解決していった。週末課題、小テストも毎回実施し、不合格生徒を残し、粘り強く指導した。学年通信も定期的に発行できた。今年度は手帳を活用できなかったため、来年度は手帳を活用し、自己管理能力を高められるよう指導していきたい。また、進学希望者に向けての継続した補習ができなかったため、来年度は進学希望者に1学期から継続した補習を行いたい。</p>							

全体評価		分掌内での評価		分掌外からの評価		重点事項	具体的取組
《第2学年》							
3.2	A	3.7	A	3.2	A	指導方針の共通理解を図り、生徒情報の共有を常に心掛ける。	日頃から生徒情報の共有に努め、指導は学年団全体で当たる。
3.2	A	3.2	A	3.2	A	「やるときはやる、やればできる」を合い言葉に、お互いを高め合える「TEAM46」をつくる。また、「自分で考え、実行し、責任を果たす」をスローガンに大人としての資質を養う。	誇りをもって北高を「私の学校、僕の学校」と言える卒業生になるために、「できることはやる」ということを実行し、進路実現にむけて努力させる。また、大人としての責任ある考え方や動き方を身につけるため、日々の学校生活の中で実践していく。
3.1	A	3.0	A	3.1	A	個々の進路希望、能力に応じた学力向上を目指す。	週末課題（国・教・英）に取り組みせ、漢字テスト・英単語テストも実施。調査前の質問会や補習を学年全体で取り組み、進路実現につなげていく。また、学習合宿も昨年度に続いて実施する。
3.1	A	3.3	A	3.1	A	学校行事を通して自主性を育て、責任ある行動を身につける。	文化祭や体育大会、修学旅行などの学校行事をとおして、各委員や代議員などを中心に、「TEAM46」全員で行事を運営し、充実させようとする姿勢を育てる。
3.0	A	3.2	A	3.0	A	進路実現に向け、生徒自身が自主的に考え、行動する姿勢を養う。	進学希望の生徒には、大学・短大・専門学校のオープンキャンパスに積極的に参加させ、進学について具体的に考え、目標を決定させる。就職希望の生徒には、インターンシップなどの就職体験を通じて、社会人としての有り様について考えさせ、具体的な就職活動の準備をさせる。
3.2	A	3.3	A	3.2	A	保護者と連携を密にし、生徒一人ひとりを支援する体制を作る。	学年通信を定期的に発行し、学校・学年の取り組みを紹介する。学校・家庭における生徒の情報交換に努め、保護者と密に連絡を取り合い、生徒・保護者・教師が同じ方向にむかって、丁寧な取り組みに努める。
《今年度の振り返りと来年度への改善点》							
<p>「やるときはやる、やればできる」を合い言葉に、お互いを高め合える「TEAM46」をつくる。また、「自分で考え、実行し、責任を果たす」をスローガンに大人としての資質を養うことを教育目標に指導してきた。文化祭・体育大会などの生徒会行事や修学旅行の中で、十分ではないが成果が出てきている。今後もしるような場面で「自分で考え、実行し、責任を果たす」を実践できる学年をつくっていききたい。新入試にむけて紆余曲折がある中で、生徒の進路については進路指導部と連携しながら、実現にむけて取り組みをしてきた。また、教科担当の先生方の協力もあり、長期休み期間に限らず補習も実施してきた。今後は休日の図書館の開放も考えていき、学習できる機会を多くしていきたいと考えている。昨年度と同様、学年団は一致団結し、いろんな事案にも学年団で共有し、一つ一つ解決していききたい。週末課題、小テストも毎回実施し、粘り強く指導を行ってきた。いろんな事案にも学年団で共有し、一つ一つ解決していききたい。</p>							
《第3学年》							
3.3	A	3.4	A	3.3	A	生徒の適性と進路希望を把握し、進路実現のための効果的な働きかけを行う。	生徒の進路希望と適性を的確に把握するために二者面談や三者面談を充実させ、普段から生徒・保護者との意思の疎通に心がける。また、職員が外部の説明会等に積極的に参加するなど、最新の入試動向について理解を深めることで、生徒に適切な助言ができるようにする。
3.0	B	3.0	A	3.0	B	生徒の進路実現に必要な諸要素（学力・生活態度・マナー・根気など）を向上させる。	それぞれの進路実現のために必要な能力を身につけることを意識させ、その修得に向けて、学校生活のあらゆる場面において、生徒の意識改革を図る。
3.1	A	3.2	A	3.0	A	進路実現に向け、生徒自身が自主的に考え、行動する姿勢を養う。	志望する大学・短大・専門学校のオープンキャンパスに積極的に参加することで、自己の進路について深く考えるように促す。就職希望の者には、様々な就職指導を通じて社会人になることを意識させる。
3.3	A	3.0	A	3.3	A	保護者と連携を密にし、学校と保護者が一丸となり、生徒一人ひとりを支援する体制を作る。	保護者向けの進路・就職説明会を実施することで、学校からの情報発信を続ける。学年通信を定期的に発行することで、学年団の方針や学校・学年の取り組みを紹介する。適宜、学校・家庭における生徒の情報交換に努め、保護者懇談会においても丁寧な取り組みの説明に努める。
2.6	B	2.5	B	2.7	B	職員間で連携を取りながら、学年の生徒を学年全体で育てる意識を持つ。	生徒の様子や進路希望について、職員間で積極的に情報交換を行い、学年全体でサポートする。
3.0	B	2.7	B	3.0	A	学校行事を通して自主性を育てる。	文化祭や体育大会などの学校行事を、学級委員長や各委員などを中心に生徒の手で行事を運営し、充実させようとする姿勢を育てる。
《今年度の振り返りと来年度への改善点》							
<p>生徒の進路実現のために1日1日を大切に心をかけて取り組んできたが、各クラスの取り組みが学年全体に反映するところまで情報交換が十分でなく、学年全体で個々の生徒をサポートできていなかったと反省する。残り少ない高校生活を充実できるよう学年全体で取り組み、高校卒業後のあり方についてもフォローできるようにしていきたい。</p>							
《勤務時間の適正化に関して》							
2.6	B	/	/	/	/	勤務時間の適正化。	従事時間申告書の提出・定時退勤日の徹底、年休10日間取得を促進するとともに、会議の精選化を図る。
《今年度の振り返りと来年度への改善点》							
<p>評価は昨年度・昨年度同様の2.6と、不十分な評価となった。しかし、「従事時間申告書」の提出については、早期に提出する職員が増えた。「定時退勤日」の徹底については、取り組みは十分とは言えず、引き続き職員への周知徹底を行っていききたい。「年休取得」については、約2/3の教職員は目標を達成したが、1/3の教職員について年休取得を呼びかけていく。「会議の精選化」については、資料の事前配付やスムーズな進行によ、概ね達成できた。</p>							